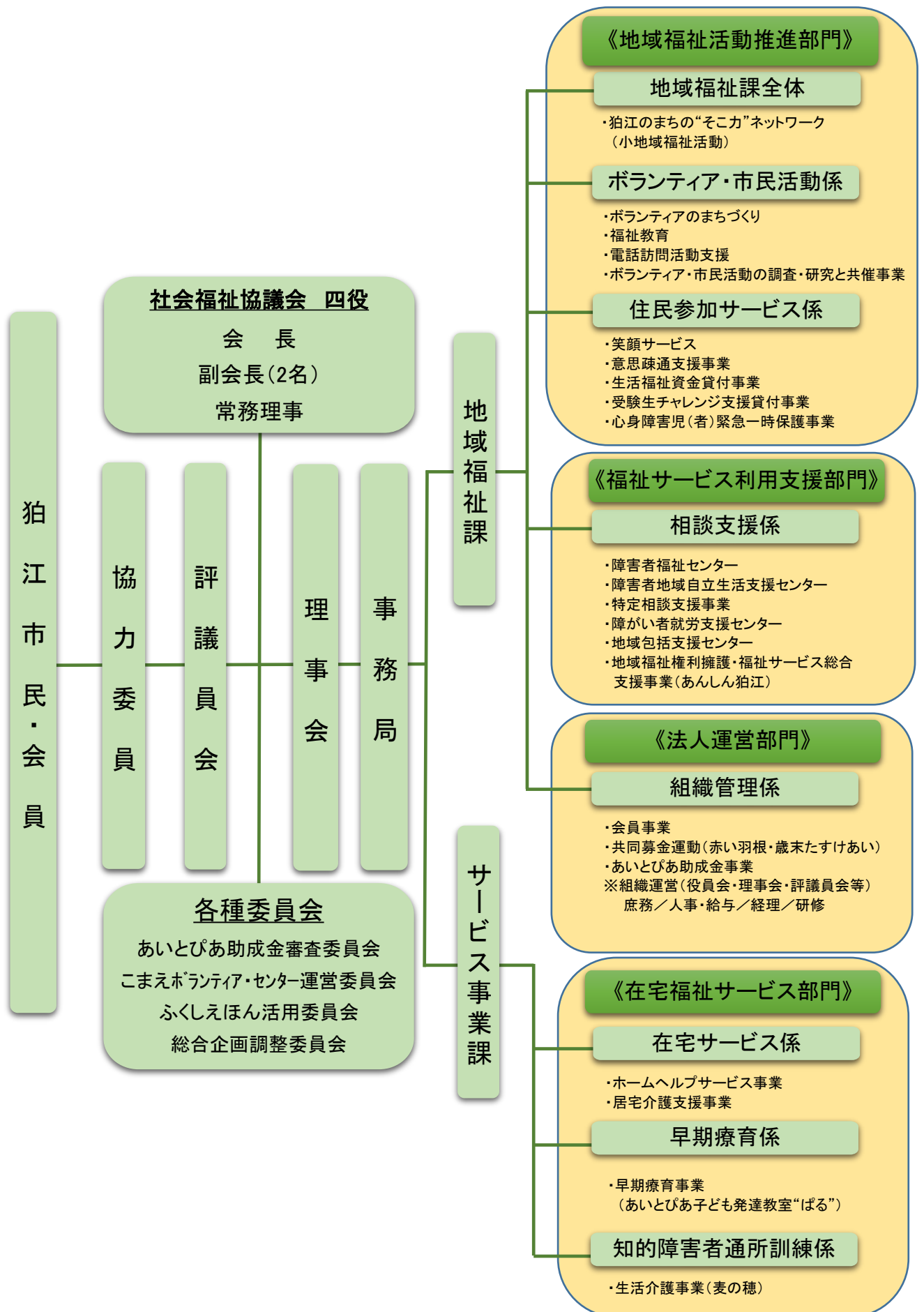


平成27年度
事業報告書

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会



平成 27 年度社会福祉法人狛江市社会福祉協議会事業報告

平成 27 年度基本方針

狛江市社会福祉協議会には、「であい・ふれあい・ささえあい」のまちづくりのために、地域住民や諸団体の参加と協力、協働による多様な福祉活動や福祉サービスの一層の充実が求められています。

近年の少子高齢化の進展や地域社会での相互扶助機能の低下などにより、子育てに悩む家庭や障がいのある親族と暮らす家庭、要介護状態の高齢者など地域のなかで不安を抱える人が孤立することのないよう、そこに住む住民がみんなで問題の解決に向けて考え、ささえあい、助け合いながら自分にできる範囲で活動できる仕組みを広め、「地域の福祉力」を高めていきます。

平成 26 年 11 月に策定した、狛江市社会福祉協議会行動計画に掲げた「地域を支える人材育成」「人をつなげる地域づくり」「地域の助け合いの仕組みづくり」の三つの基本目標の実現を目指します。

また、狛江市と社協の若手職員 10 名で構成されたプロジェクトチームにて検討を行い、平成 26 年 8 月にまとめた「社会福祉協議会の役割再検討に関する報告書」の中では、重要な事項として「地域のネットワークづくり」「ボランティアの育成」「小地域福祉活動の推進」ができるよう相談機能等を見直し拡大を図るための事業展開について明確なビジョンを創り上げるよう提言されています。

これらを受け、平成 27 年度は次のとおり新規事業の取組み並びに重点的な取組みを掲げ地域福祉の推進に努めてまいります。

■総括

平成 27 年度は、狛江市社会福祉協議会行動計画に掲げた、「地域を支える人材育成」「人をつなげる地域づくり」「地域の助け合いの仕組みづくり」の三つの基本目標について、次のような取り組みを行いました。

最初に「地域を支える人材育成」では、狛江社協の周知に「こまちゃん」を活用し、認知度を上げました。シニア世代を対象としたアンケートを実施し、集計結果を市民活動のきっかけにつなげていきます。夏体験ボランティアは青年層向けプログラムの必要性、ボランティア・市民活動の裾野を広げる支援体制とプログラムについての検討が課題となりました。

次に「人をつなげる地域づくり」では、認知症高齢者及び障がいのある方の権利擁護に対する相談は増加していて、虐待の対応に関する相談等様々な相談に対応してきました。市内に 2 番目の児童相談支援事業所を開設し、60 名を超える児童の計画相談を実施しました。

次に「地域の助け合いの仕組みづくり」では、推進委員との連携及び地域の情報収集に努め、地域での個別ケースの解決を行いました。重点地域で住民座談会を実施し、そこで出た意見をまとめ、次期地域福祉活動計画の策定に活用していきます。西和泉 1 丁目エリアへの地域活動の立ち上げ支援及び情報提供を行い、開始された活動に対して支援を行いました。

新規事業の低所得世帯学習支援事業「学習支援ステーション コマゼミ」は、年 2 回実施し、学習支援の必要性は感じられましたが、今後の実施方法について課題が残りました。中途失聴難聴者手話講習会は充実した講習が実施され、難聴者・中途失聴者のニーズを把握し、今年度の参加者の要望に応える講習会の実施につなげていきます。

重点的な取り組みである、狛江市市民活動支援センター運営団体として、平成 27 年第 4 回狛江市議会定例会で平成 28 年度から平成 30 年度までの 3 年間、指定管理者として指定され、狛江市と狛江市市民活動支援センターの指定管理業務に関する協定を締結し、平成 28 年 4 月の開館に向けて準備を進めました。

■新規取組み

1 低所得世帯学習支援事業「学習支援ステーション コマゼミ」の実施

○夏季参加者

小学生 7 名・中学生 3 名 計 10 名 / ボランティア 16 名

※実施日ごとの内訳

8 月 5 日 小学生 7 名・中学生 3 名・ボランティア 10 名

8 月 12 日 小学生 6 名・中学生 3 名・ボランティア 7 名

8 月 19 日 小学生 5 名・中学生 2 名・ボランティア 12 名

8 月 26 日 小学生 7 名・中学生 3 名・ボランティア 9 名

○春季参加者

小学生 5 名 / ボランティア 6 名

※実施日ごとの内訳

3 月 16 日 小学生 5 名・ボランティア 6 名

3 月 23 日 小学生 5 名・ボランティア 5 名

3 月 30 日 小学生 5 名・ボランティア 5 名

低所得世帯の子どもを対象とした学習支援事業を夏季と春季の年 2 回実施しました。春季は、夏季に参加した子どもから、「また参加したい」という希望があり 3 名のリピート参加がありました。夏季の反省点を活かして春季は早めの周知を行いました。年度の変わり目ということもあり、参加者が少ない状況となりました。

ボランティアは少ないながらも、春季には新規参加者から申込があり、子どもたちに寄り添い、和気あいあいとアットホームな中で個々の要望に合った学習ができていました。地域の大人との交流を通して、机上の学習だけでない学びが得られることもコマゼミの特徴です。

2 中途失聴難聴者手話講習会の実施

名称 「聞こえにくい・聞こえない人のための手話講習会」

日程 平成 27 年 7 月 1 日（水）～10 月 28 日（水）【全 15 回】

水曜日 午前 10 時～正午

参加者 8 名

中途失聴難聴者のみを対象とした講習会を、市民からの寄付を財源に、市民と一緒に社協独自事業として立ち上げ、実施しました。

当事者同士が集まることにより、聞こえないという障がい付随する日頃の悩みについても共有できた部分があり、参加者の多くから継続開催を望む声が聞かれました。

その一方で、今回参加できなかった方からは、「難聴者向けの講習会があることを知らな

かった」との声もあったため、周知方法についてはさらに工夫をしていきます。

今後は、日常的に手話を必要としている難聴者・中途失聴者が市内にどれくらいいるのかのニーズ発掘に重点を置き、学習したい方が多数いるようであれば、継続した講習会の実施を検討していきます。

■重点的な取組み

1 市内全域の小地域福祉活動の推進

和泉地域について、すでに住民による取組みが実施されている地区（中和泉5丁目、西和泉2丁目）と今後働きかけを進める地区（西和泉1丁目）に分け、それぞれに1名ずつ担当者を配置するとともに、和泉地域全体の取組みを進めるために、事業の進捗管理を行う担当職員を2名配置して、職員間の事業の推進体制を整えました。

2 地域包括支援センターの職員体制の強化

平成28年度からの機能強化型地域包括支援センターの受託に向けて、保健師1名、社会福祉士1名、主任介護支援専門員2名、介護予防計画プランナー1名の職員体制を整えました。

また、小地域福祉活動のモデルエリア（和泉地域）の担当として、中和泉5丁目及び西和泉1丁目の担当を兼務し地域の情報収集にあたりました。

小地域福祉活動の担当職員の定例会（そこ力ネットワーク会議）の中で上がった個別ケースについては他の居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携し解決を図りました。

3 狛江市市民活動支援センター運営団体（候補者）として準備を進める

①協定の締結

市民活動支援センターを運営するための基本的な考え方となる「運営方針（素案）」を作成しました。この運営方針を土台に、平成28年度から平成30年度までの3年間の事業計画書及び収支計画書と平成28年度の事業計画書及び収支計画書を市民とともに作成し、狛江市と狛江市市民活動支援センターの指定管理業務に関する協定を締結しました。

②開設に向けた運営体制について

狛江市と調整し、開館時間は午前10時～午後5時で休館日は火曜日、祝日、12月29日～1月3日とし、5名の職員を配置することになりました。また運営委員会の設置及び運営に関する規程を策定し、14選出区分17名以内の委員構成としました。

③開設に向けた周知について

○第 35 回ボランティアのつどい

9 月 27 日（日）に狛江市ボランティア連絡協議会と社会福祉協議会（こまねボランティア・センター）の共催で実施した「第 35 回ボランティアのつどい」で、市民活動支援センターの拠点や機能をまとめたパネルを展示し、参加者や参加団体に周知しました。

○市民向け説明会

実 施 日：3 月 18 日（金）①14 時～ ②18 時半～

実施場所：あいとぴあセンター 2 階研修室

参加者数：①20 人 ②13 人

内 容：市民活動支援センター開設の経緯、事業概要、質疑応答

○狛江市主催の市民と職員が共に学ぶ協働研修会への参加

狛江市主催の市民と職員が共に学ぶ協働研修会「狛江市市民活動支援センターについて」にて市民と市役所職員に向けて市民活動支援センターについて話をしました。

④その他

他市の 2 か所の市民活動支援センター（多摩ボランティア・市民活動支援センター、調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター）を視察し、市民活動支援センターの機能や人事、労務に関して調査、研究しました。

4 早期療育事業に対する期待に応えるために

待機児童ゼロを目的に利用者枠を 60 名から 80 名に広げグループ運営をしました。

0～3 歳児を対象としたグループ枠は平成 28 年 2 月で定員に達してしまい、その後“ぱる”を見学し利用を希望した児童は、新年度の 4 月から利用開始となりました。開始までの間は市役所への申請から利用計画の作成期間にあたり、待機児童とはカウントされないため、待機児ゼロの目的は達成できました。

狛江市近隣には、“ぱる”以外にも児童発達支援事業所が開所しており、必要な児童には療育を受けられる環境（社会資源）が整備されつつありますが、次のような課題も出ています。

療育が必要であると判断され、集団指導の希望があり利用開始に至ったにも関わらず、“ぱる”全体の利用率が 50%台になる月が出てきました。そのため“ぱる”の療育の根幹である小集団による療育の提供に支障が出てきています。療育の大切さについて保護者の理解を促すことや、保護者のニーズにマッチした運営の仕方を検討するなど、更なる工夫が必要です。

■ 具体的な取組み

1 地域を支える人材育成

1 地域住民への働きかけを進めていきます。

（１）狛江社協をわかりやすく地域住民に周知を図ります。

マスコットキャラクター「こまちゃん」のイラストを５ポーズ増やし、各事業のチラシや資料などへ活用することで、PR効果を高めました。

また、市内の次のイベントにこまちゃんが出演し、PR活動を行いました。最近では、「こまちゃん！」と声をかけられる機会が多くなっており、11月に開催された市民まつりの「キャラクター総選挙」では、11体中第2位と健闘しました。

主な出演イベントは次のとおりです。

- ・ 終戦 70 周年平和祈念事業（５月）
- ・ 狛江フェスティバル（８月）
- ・ 狛江市民デー（９月）
- ・ 第 35 回ボランティアのつどい（９月）
- ・ 狛江市親子フェスティバル（11 月）
- ・ 市民まつり（11 月）

その他、全国のゆるキャラが出場し投票により人気を競う「ゆるキャラグランプリ」にもエントリーを行い、1,727 体中総合で 586 位（企業その他で 203 位）という結果でした。

（２）地域住民を地域のささえあい活動に呼び込んでいきます。

地域社会とのつながりが希薄な高齢者が地域とつながる方法を考えるため、シニア世代対象のアンケートを実施しました。アンケートの結果は、平成 28 年度に開所される市民活動支援センターの運営委員会に報告して、地域の活動に参加していただくために、どのような場で、どのように市民活動のきっかけを提案する必要があるのかなどを検討していきます。

(3) 地域の担い手を養成していきます。

取組1：理事、評議員、協力委員との連絡体制構築

理事、評議員、協力委員に『地域で地域をイキイキと！』（「狛江のまちの“そこ力”をつなげよう」報告書）を配布しました。この報告書は平成26年度に実施した小地域福祉活動者を対象とした研修会の報告書ですが、地域での見守り活動のポイントや相談先一覧及び社協の事業案内についてまとめています。理事をはじめとした皆さんに社協の活動を再認識してもらい、活動を通して地域の方に異変や気になることがあった場合には、社協へつなぐよう改めて周知を行いました。

2 福祉教育を通して将来の人材を育てます。

(1) ふくしえほん「あいとぴあ」を就学後につなげます。

平成27年度は保育園幼稚園などに通う575名の5歳児(年長児)にふくしえほんを配付しました。

市内の各園ではそれぞれの特色を活かした活用を行っていますが、保育園の増加などにより、ふくしえほんの活用プログラムの希望が特定の時期・特定のテーマに集中し、十分に対応できないという課題がありました。また、在籍する5歳児が少ない園どうしで、合同でプログラムを実施するという新たな取組みがみられました。今後は担当職員研修会を中心に、取組みの方法や状況を共有するほか、多様なプログラムを提示していきます。

(2) 子どもたちの「優しさ」「思いやり」の気持ちを育てます。

取組2：中学・高校生、青年層に向けたプログラム開発

夏体験ボランティアでは、参加者の4分の3を小学生、中学生、高校生が占めました。特に、市外の中学校に通っている中学生の参加が多くみられました。こうした若い世代が多く参加したプログラムが地域のイベント「狛江フェスティバル」でした。このような青年層が興味関心を持ち参加しやすいプログラムを用意する必要があります。また参加者による振り返りの会を行いました。参加者は多くありませんでしたが、活発な意見を聞くことができ、今後のプログラム作りの参考になりました。

教育現場での福祉教育に関する取組みに関しては、小学校から福祉教育に関する協力依頼が6件ありました。その中には近年関わりの少なかった小学校からの依頼もあり、継続的に関わりを持てるようにしていきます。

（３）防災意識を高める取組みを行います。

取組３：災害ボランティアセンターの立ち上げ、運営の準備

10月25日（日）に、狛江市主催の総合防災訓練に参加しました。公募によりボランティア役の参加者を募り、災害ボランティアセンターの設置・運営のシミュレーションを行いました。今回は各避難所や福祉避難所との連携を想定しましたが、マッチングの向上だけではなく、連絡調整やネットワーキングをいかに行うかによって、その機能に大きく影響があると感じた訓練でもありました。

また、こまえボランティア・センター運営委員会内で企画し、訓練当日についてだけでなく、災害ボランティアセンターの初期の情報発信や周知活動についても検討を行い、新たな試みとしてホームページを使った情報発信とセンター内の表示・掲示物の整備を進めることができました。

訓練終了後に行った振り返りでは、参加者から、支援活動のスキルの向上やより実践的な訓練・活動を望む声が多く聞かれました。今後は、災害ボランティアセンターの運営側への市民の参加や運営側のシミュレーションにとどまらない仕組みや訓練内容への工夫が必要であると同時に、災害ボランティアセンターや災害時の支援がどのようなものか共通理解をしておくためにも、養成・研修なども合わせて検討することが課題となります。

次年度につながる試みとして狛江市ボランティア連絡協議会と共催で勉強会「狛江の福祉×災害」を開催しました。「ヘルプカード」をテーマに災害時やその後の生活の中で互いに支えあっていくために、日頃地域にはどのような人がどのような課題を抱えながら暮らしているのかを知ることで日常の延長線上に起こる災害についてともに考え、参加者それぞれの立場からの意見交換の場を持つことができました。

2 人をつなげる地域づくり

1 小地域福祉活動を促進していきます。

(1) 小地域福祉活動の役割を地域に伝えていきます。

取組 4：小地域福祉活動紹介講座

各地域の活動を紹介する掲示物を推進委員が自ら内容を考えて作成し、ボランティアのつどいで発表しました。地域の活動団体やボランティア活動者が集まる場で初めて各地域で行われている小地域福祉活動の情報発信をしました。

作成した掲示物は、各地域内での掲示に利用するなど様々な形で活用されました。

取組 5：小地域福祉活動をささえる組織体制、地域と連動した支援体制の整備

ボランティアのつどいで地域の活動を紹介する掲示物を作成するにあたり、各推進委員に小地域福祉活動の意義や活動の原点について推進委員間で共有することが出来ました。

(2) 地域人材情報を地域活動団体と共有していきます。

取組 6：地域活動団体にボランティア関連情報、人材情報を提供

推進委員が自分たちの行う小地域福祉活動について地域住民に向けて発信することの大切さについて学ぶ研修を行いました。

実際にボランティアのつどいで地域住民や地域活動団体に小地域福祉活動を伝える機会を設けました。伝える内容や紹介したい内容、小地域活動に協力してもらう人材確保について推進委員自身が考え、研修の成果として上記(1)のとおり掲示物を作成しました。

(3) 地域の個別な課題を地域団体と共に考えていきます。

取組 7：地域で発生している課題の早期発見

定例の小地域福祉活動担当者会議の場で地域住民から情報提供のあった個別ケースについて、担当職員間で検討して早期対応に取組みました。

関係機関・団体には、地域での困りごとがあったときの相談窓口としての地域担当制を周知しました。

2 地域への相談支援機能を強化していきます。

(1) 狛江社協で実施している各事業を連携させ、高齢者、障がい者・児の地域生活を支援していきます。

多くの問題を抱える家族に対して、各部署の担当職員間で情報交換を進め連携して支援を行いました。

複雑な課題に対しては、関係する職員によるカンファレンスを不定期で実施し、課題の整理と解決方法の検討を行いました。

(2) 高齢者や障がい者・児の将来の生活の不安に対する取組みを始めます。

平成 27 年度、認知症高齢者及び障がいのある方の権利擁護に関する相談は、増加しています。認知症高齢者や障がいのある方で、判断能力が十分でなく自己決定や選択に支援の必要な方の相談は、平成 26 年度と比較して、地域福祉権利擁護事業に関する相談で 2 倍、福祉サービス総合支援事業の権利擁護に関する相談で約 2.4 倍の相談件数になっています。また、成年後見制度の利用相談は 1.2 倍となっています。高齢者人口の増加による相談件数の増加に加え、関係機関に個別の支援を通して関ったことから、制度の理解が深まり、新たな相談につながったことが相談件数増加の要因と考えられます。

権利擁護相談では、昨年同様虐待の対応に関する相談が多かったことに加え、債務整理に関する相談も多くありました。債務整理に関する支援では日常金銭管理を行うことで解決できる債務の額ではなく、弁護士等法律家の支援が必要なケースが多く、9 件の支援を行いました。解決に向けた支援は、初回相談から解決まできめ細やかな支援が必要で、1 件にかかる平均支援回数は 18 回でした。弁護士との面談の立会以外に、本人への再説明や、書類作成のための支援等、自分自身の力で解決ができるように支援を行いました。個別の支援を通じて、法テラスや低所得者の法的支援をしている多摩パブリック法律事務所をはじめ、狛江市近隣で活動している弁護士、司法書士等との連携が円滑にできるようになりました。

成年後見制度の利用相談の中では、第三者専門職を候補者で申ししたいという相談も多く、弁護士、リーガルサポート（司法書士会）、ぱあとなあ東京（東京社会福祉士会）、クローバー（東京精神保健福祉士会）等の職能団体と連携し第三者後見の候補者の紹介を積極的に行いました。また、個人の候補者紹介だけでなく、法人後見の紹介も実施しています。

申し立て支援については市長申し立てによる第三者後見の候補者紹介も行いました。一方、親族後見人の選任率が減少している現状の中、あんしん狛江で支援をした親族を候補者とした申し立てにおいて、全件が親族後見人に選任されたことから、専門職のみのネットワークだけでなく、親族後見人のフォローアップも含めたネットワークの形成が地域で必要とされています。

このように、相談件数が増加し、相談内容も複雑化している現状を踏まえ、公平公正な支援を安定して行うため、あんしん狛江運営委員会を立ち上げました。精神科医、弁護士、司法書士、社会福祉士、精神保健福祉士等の専門家をはじめ、行政担当者、社協の事務局長で構成され、東京都社会福祉協議会地域福祉部権利擁護担当もオブザーバーとして出席いただきました。委員会では、個別ケースの支援や、関係機関との役割分担とネットワークの活用等の助言をいただきました。

（３）障がい者・児の地域生活を関係者とともに支えます。

狛江市内の児童相談支援事業所数が１事業所のみという課題があったため、平成 27 年度は２つ目の事業所として児童相談支援事業を開始、60 名を超える児童の計画相談を行いました。

事業所連絡会では、障がい者・児に対して、より良い計画相談が行えるように情報交換やケースの検討、意見交換等を行いました。

また、ハローワークや就労移行支援事業所の協力により、障がい者就労に関する情勢や支援について伝える講演会「就労促進講演会～障がい者が働くために～」を開催しました。

3 地域の助け合いの仕組みづくり

1 地域の課題を見つける仕組みを強化します。

(1) 地域住民が相談しやすい体制をつくります。

地区担当制として各地域に2名の小地域福祉担当職員を配置しました。

推進委員からは、相談できる職員が増えて助かるなどの声をいただきました。

(2) 小地域福祉活動を通じて情報収集を進めます。

前年度に実施した研修の内容をまとめた冊子「地域で地域をイキイキと」を作成して推進委員に配布し、地域での見守りが求められていることなどの啓発を行いました。

推進委員からは、地域で気になることの相談窓口が数多くあることを知ることが出来たなどの感想をいただきました。職員が担当地域のサロンへ定期的に参加することで、直接参加者や委員から困りごとを聞くことが可能になっています。

2 地域の課題を共有する仕組みをつくります。

(1) 担当者間の情報共有を進めます。

取組8：課題の分析と支援方法の検討

そこ力ネットワーク会議の中で、地域住民から情報提供があった個別ケースへの対応を職員間で検討し、地域包括支援センターや他事業所のケアマネジャーと共に個別解決を行いました。

(2) 地域福祉コーディネーターを配置します。

取組9：地域担当者と連動して地域での活動実施

東京都社会福祉協議会が主催する「地域福祉コーディネーター養成研修」や「課題発見・解決志向型地区社協整備事業検討委員会」に小地域福祉活動担当職員が出席し、東京都下のモデル地域の取組み事例の情報を収集し、モデル地域の取組み事例や地域包括ケアシステムについて小地域福祉活動担当職員間で共有し情報交換を行いました。

（３）住民同士が地域の課題を共有できる機会をつくります。

取組 10：地域情報を共有、意見交換するための「地域懇談会」の定期的な実施

狛江のまちのそこ力ネットワークの和泉地域の担当職員が中心となり、モデルエリア（和泉地域）で住民座談会を開催しました。和泉地域を複数のブロックに分けてそれぞれのブロック単位で開催することで、より近いエリアの住民同士で意見を出し合うことが出来ました。他の地域での開催に向け、試験的に平日昼・夜・休日の複数開催とし、参加する年代や関心のあるテーマを探りました。各地域で出た意見をまとめ、平成 28 年度に地域住民へ周知していくとともに、未実施地域での実施に向けて検討します。

３ 地域の課題を解決する仕組みづくりを促進します。

（１）地域福祉を重点的に進めるモデルエリアを設置します。

取組 11：和泉地域内の町会、自治会等の組織との連携に向けての体制づくり

モデルエリアである和泉地域に対し、2つの方向性をもって関わりました。1つ目は住民との対話の中から、地域の課題や住民の思いを確認し、地域への支援に反映するための住民座談会を実施しました。住民座談会開催については、社協内の全部署が一丸となり取り組みました。住民座談会の中で出た意見は今後の地域活動へつながる足がかりとなりました。

2つ目は和泉地域の中で、西和泉1丁目のエリアへの地域活動の立ち上げの支援を行いました。自治会が主体となり立ち上げた活動に対し、地域包括支援センターの職員が出向き、講座を開催する等、社協の持つ資源を地域に活用していけるよう、今後も検討をかさねます。
※モデルエリアの取組みについては、重点的な取組や前頁の住民座談会においても記載しています。

（２）職員間連携により、個別課題解決への取組みを進めます。

高齢者と障がい者で構成される家族や複合的な生活課題を持つケースについて、日常業務の中で担当間のケースカンファレンスを行いました。

虐待に関わるケースや世帯の中に複合的な生活課題を抱えるケースなど、複数の担当が協力して課題解決をしていくケースが増加しています。

（３）モデルエリアを中心に地域の推進体制を整えます。

和泉地域をモデルエリアとして住民座談会を開催しました。そこで出された課題を共有したうえで、具体的な課題解決に向けた活動内容等についても意見交換がされました。平成28年度は地域住民が積極的に活動推進を目指している地域に向け支援できる体制を作っていくとともに、その他の地域へも関係機関や団体と共有しながら支援できる体制づくりを進めていきます。

また、西和泉1丁目の地域住民に小地域福祉活動の役割や活動支援について情報提供を行い、開始された活動に対しての支援を行いました。

（４）地域のネットワークづくりを促進していきます。

介護保険関係の連絡会や障がい福祉サービス等事業所連絡会に参加し、各地域で展開されているサロン活動の情報を提供しました。

4 地域課題に応じるための運営体制の強化

1 組織内の業務を整理して余力を生み出します。

(1) 業務の外部団体への外注化（アウトソーシング）を行います。

平成 27 年 10 月にマイナンバー制度が施行されました。マイナンバー業務では、その取得から廃棄まで、煩雑で取扱いが難しい作業が発生するため、法人の業務負担はとて大きいものとなります。適切な対応をするには専門的知識が必要となるため、社会保険労務士法人へアウトソーシングを行い、適正かつ安全に職員のマイナンバーを取り扱うことを可能にしました。

(2) 委託事業について粕江市と検討を進めます。

社協職員と粕江市職員で構成された「社会福祉協議会の役割再検討に関するプロジェクトチーム」が作成した「社会福祉協議会の役割再検討に関する報告書」において指摘があった委託、補助事業について、それぞれの課題を整理しました。今後は、平成 29 年度実施予定の総合事業について市と連携をとりつつ、協議を進めて行く予定です。

2 新たなニーズに対応できる組織体制を作ります。

(1) 市民活動支援センターの運営受託に向けて組織的な準備を進めます。

※前述（重点的な取組）のとおり

(2) 地域の個別課題の解決のために効率的に対応できる組織体制を検討します。

会計ソフトのクラウド化を行いました。事業担当者側でもリアルタイムに予算執行の状況や収支状況等がわかるようになり、よりお金を意識した効率的な事業実施を進められる土台を作りました。

また、介護保険の改正や新たな事業等に効率的、効果的に対応していくため、平成 28 年度 4 月実施に向けて、組織体制改編の検討を行いました。

3 新たな組織体制を支える財政的な基盤を整備します。

(1) 狛江市社会福祉協議会の会員増強の取組みを進めます。

市内の 68 の企業にダイレクトメールを送付し入会の周知を行ったところ、2 つの企業から入会の申込みがありました。

また、新規会員の入会を促進するため、新たに建設された大型集合住宅（住戸数約 500）の居住者へ会員募集チラシを配布したり、協賛店には、社協事業の紹介チラシ等を配付して利用客に社協の案内をしていただきたい旨の協力を求めました。

これらの新たな取組みの結果、つつじ会員数は減少したものの、いちょう会員数、さくら会員数が増加し、会費収入は平成 26 年度の実績を 37,000 円上回る 3,519,000 円となりました。

(2) 収益事業の展開を検討します。

マスコットキャラクター「こまちゃん」のグッズを市民まつりの模擬店で景品として配布したり、職員向けにマスコットキャラクターのポロシャツやTシャツの試作、販売を行い、グッズ類への反応やその品質等の検証を行いました。

また、収益事業を開始した場合の会計、税務処理に備え、税理士法人と顧問契約を結びました。

(3) 寄付の促進に向けた取組みを拡充します。

寄付者の思いに沿い、寄付金（指定寄付）やあいとびあ基金の利息収入の一部を、平成 27 年度の新規事業である「学習支援ステーション コマゼミ」と「中途失聴難聴者手話講習会」の財源に充て、有効な活用を行いました。

平成27年度社会福祉法人狛江市社会福祉協議会 事業実施報告

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
地域福祉推進部門			
	地域福祉課全体	小地域福祉活動の推進（狛江のまちの“そこ力”ネットワーク） ①岩戸地域ネットワーク活動の支援 ○岩戸地域福祉推進委員会 全体会 3回【3回】 ○岩戸地域福祉推進委員会 研修会 1回【0回】 ○お茶のみ会 10回（10月、3月を除く第2水曜日）【10回】 参加者延 334名【190名】 ○会食会 4回（10月、3月の各2回ずつ）【0回】 参加者延 159名【0名】 ※平成26年度は岩戸地域センター休館のため実施せず。 ②猪方駒井地域ネットワーク活動の支援 ○猪方駒井地域福祉推進委員会 全体会 3回【3回】 ○おしゃべりサロン 10回（9、11月を除く第4木曜日、12月のみ第3木曜日） 参加者延 553名【497名】 ○おたのしみ会 1回 参加者 119名【118名】 ○もちつき大会 1回 参加者 250名【290名】 ○推進委員 交流会（6/17） 16名【22名】 ○推進委員 新春の集い（2/23） 19名【23名】 ③野川地域ネットワーク活動の支援 ○野川地域福祉推進委員会会議 12回 毎月第4木曜日 【12回】 ○サロン野川 12回 毎月第4木曜日 参加者延 607名【626名】 ④和泉地域ネットワーク活動の支援 ○“サロンいずみ”をささえる会への支援（中和泉5丁目） ・サロンいずみ 10回（8月、1月を除く第3木曜日）【9回】 参加者延 234名【201名】 ○いずみサロン運営委員会への支援（西和泉2丁目） ・いずみサロン 11回（8月を除く第3水曜日）【11回】 参加者延 278名【300名】 ・運営委員会 4回（6月、9月、12月、3月）【4回】 ⑤おとなりサロン活動の支援 ○活動助成 2件（サロン野菊・和泉本町2丁目の一部で活動）【2件】 （サロン団地・和泉本町4丁目狛江団地で活動） ⑥ネットワーク会議 ○ネットワーク担当者会議 13回【12回】 アドバイザー：上智社会福祉専門学校 岩崎雅美氏 ○そこ力ネット会議（地域活動者を対象とした講座）【2回 45名】 5/22「伝えよう！私の・私たちの活動のこと」 参加者23名 ※ボランティアのつどいにて各地域の活動紹介を作成、展示	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		⑦和泉地域住民座談会 2/3～2/29 全12回 参加者49名 趣旨説明、社会福祉協議会事業概要説明、グループごとのワークショップ ※27年度新規取り組み ・和泉本町 2/13昼 2名、2/29昼 12名、2/29夜 6名 計20名 ・西和泉 2/3昼 0名、2/3夜 1名、2/6昼 3名 計 4名 ・中和泉 2/6昼 11名、2/18昼 0名、2/18夜 0名 計11名 ・元和泉・東和泉 2/12昼 7名、2/12夜 2名、2/13昼 5名 計14名	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		地域福祉課ボランティア・市民活動係 こまえボランティア・センター	
		ボランティアセンター事業 ①相談・コーディネート ○活動希望者からの相談 48件【69件】 ○支援を必要とする相談 39件【72件】 ○その他の相談 44件【63件】 ○福祉教育・ボランティア学習 37件【30件】 ②情報の拠点 ○ボランティア情報（251～260号）の発行 各号3,500部発行【各号3,400部】 ○ホームページ管理 アクセス数 1,708件【1,570件】 ○ボランティア・市民活動情報コーナー レターケース登録団体 16団体【13団体】 ③養成・研修 ○ボランティアガイダンス 1回 1名【1回 1名】 ○講座「視覚障がい者を知ろう」（共催：狛江視覚障害者の会）【16名】 ・春の講座 参加者延 13名 第1回 6/6 視覚障がい者についての概要と日常生活について 第2回 6/13 狛江のガイドヘルパーについて、ガイド体験 ・秋の講座 参加者延 17名 第1回 11/4 視覚障がい者についての概要と日常生活について 第2回 11/11 狛江のガイドヘルパーについて、ガイド体験 ○デージー入門講座「知ってみよう・やってみよう！デージーってなに？」 第1回 2/5 デージーについて、ディスクレシアについて、PC録音 第2回 2/12 視覚障がい者の理解、PC編集 参加者延 24名 ④ネットワーキング ○狛江市ボランティア連絡協議会への支援 ・第35回ボランティアのつどい9/27（日） ※狛江市ボランティア連絡協議会と共催で実施 参加者 約840名 参加団体 39団体 ・ボランティアのつどい実行委員会 5回【5回】 (5/9、6/13、7/11、9/11、10/8) ・ボランティア・市民活動紹介冊子の発行(8月発行 91の活動紹介) 【8月発行 90の活動紹介】 ○北多摩南部ブロック5市ボランティア・市民活動センター共催事業 ・日帰りバス縁足～避難者交流バスツアー 2/6 参加者26名 ⑤活動環境整備 ○機材・物品の貸出 プロジェクターやスクリーンなどの貸出 42件【42件】 ○ボランティア室の貸出 利用登録24団体【24団体】	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		地域福祉課ボランティア・市民活動係 こまえボランティア・センター	
		⑥調査・研究 地域の活動に関するアンケートの実施（8月～1月） ・対象：市民大学参加者、地域サロン参加者 ・回答：配布数263 回収数244 回収率93% ⑦関係機関との連携 ○消費生活展への参加 10/9 受付案内を担当 ○講師協力・視察受入れ・関係機関との連携等 ・7/10 都立南平高校授業協力「避難所運営ゲームHUG」 ・1/12 「子育てボランティア講座」（主催：狛江市） ・3/6 災害時の「食」を考えるボランティア研修会協力 （主催：NPO法人レスキューストックヤード、東京ボランティア・市民活動センター） ⑧災害への対応 ○登録制度 個人登録者数 35名 団体登録数 1団体【37名 1団体】 ○総合防災訓練への参加と災害ボランティアセンター設置・運営訓練（10/25） 参加者29名【36名】 ○勉強会「狛江の福祉×災害」（3/12） 共催：狛江市ボランティア連絡協議会 ⑨その他 ○電話訪問活動支援 ボランティアグループ「狛江電話訪問はとの会」が行う高齢者見守り活動を支援 ・利用者実数 56名 訪問数 5,996回【76名 5,995回】 ・公開講座 ※ボランティアグループ「狛江電話訪問はとの会」と共催実施 「聴くことから始まる～家族や周りの人との絆をさらに深める」（6/24） 講師：青木容子氏 参加者：18名（一般申込者）【18名】 ○視覚障がい者への音訳情報提供サービス ボランティアグループにより録音された各種発行物等を郵送 実利用者数21名【20名】 ○回収活動の推進 使用済みの切手やインクカートリッジ、カード、はがきを回収し市民活動推進のために活用している。 ・切手 9.9kg【13.4Kg】 ・使用済みカード 約4,400枚 ・使用済みインクカートリッジ 6箱 ・未使用インクカートリッジ 5本【941個】 ・書き損じはがき 57枚 ○助成金・寄付・寄贈品のコーディネート ・ランドセル（新品）…新1年生へ ・ブランケット（手編みウール）…障がい児関係NPOへ ・文房具…市内保育園へ ・フットバブ…高齢者関係NPOへ ・シーツ、毛布等…障がい者グループホーム等へ ○ボランティア保険・行事保険加入取りまとめ ・ボランティア保険加入者数 1,955名【1,730名】 ・行事用保険加入件数 89件【99件】	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		地域福祉課ボランティア・市民活動係 こまえボランティア・センター	
		⑩運営委員会 全9回（うち臨時会議3回）【7回】 「シニア層のボランティア・市民活動センターの促進」「災害ボランティアセンター」を中心に協議	
		福祉教育推進事業（ボランティアセンター） ①ふくしえほん ○ふくしえほん「あいとぴあ」の発行 市内幼稚園・保育園、狛江市在住で市外幼稚園・保育園に通う575名の5歳児（年長児）に配布【582名】 ○ふくしえほん活用委員会 4回（4/14、7/13、10/14、2/15）【4回】 ○ふくしえほん担当職員研修会 3回【3回】 ・第1回 5/13 あいとぴあセンター見学・手話体験 前年度福祉教育研究園報告 ・第2回 10/14 講義「見えないってどういうこと？」 ・第3回 1/13 福祉教育研究園（狛江市立藤塚保育園）研究発表 ○福祉教育研究園 指定園 狛江市立藤塚保育園 年長児24名【22名】 ②ボランティアのたねプログラム ○やってみよう！親子で体験そば打ち体験教室 ・7/25 参加者 小学生 17名 保護者14名 ・協力 元祖そば打ち迷人会 ○たまがわこどもたんけんたい ・8/18、8/20 雨天のため両日とも中止 ○イザ！カエルキャラバンinこまえ ・3/22 参加者 児童 約130名 保護者約 70名【200名 100名】 ・企画協力 NPO法人プラスアーツ ・協力 狛江市、狛江消防署、調布警察署、NPO法人国際自然大学校、都立狛江高等学校JRC部、明治大学ボランティアサークルLINKs、ときの会 ③体験ボランティア事業 ○夏！体験ボランティア2015 ・受入れ団体説明会 6/8 12団体14名 ・参加者説明会 7/2、7/4、7/11 10名 ・活動期間 7/17～9/13 ・参加者 99名 【99名】 ・プログラム数 58個 【55個】 ・参加者振り返り 9/12 3名 ④保育園・幼稚園との連携 体験・見学・コーディネート等の相談 17件【24件】 ⑤小中学校との連携 体験・見学・コーディネート等の相談 6件【13件】	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	地域福祉課	住民参加サービス係	
		笑顔サービス	
		①サービス実績等	
		○利用会員登録数	257名【254名】
		○協力会員登録数	116名【108名】
		○新規利用相談件数	127件【114件】
		○サービス提供件数	6,617件【7,027件】
		○サービス提供時間	9,955時間【10,811時間】
		○笑顔のひろばの発行（会員向け広報紙）	3回【4回】
		②説明会・研修等	
		○協力会員募集説明会	11回【11回】
		○協力会員新人研修	11回【11回】
		○協力会員現任研修	2回【3回】
		・7/9「減災セミナー」	
		参加者 17名	
		講師 日本赤十字社 東京支部救護課講習係 減災普及員2名	
		・2/1「防災食☆今から始めよう！災害の備え」（調理実習）	
		参加者 12名	
		講師 鈴木邦子氏（料理研究家）	
		③事業の周知	
		○協力会員募集ポスター掲示・チラシ設置 （各地域センター、公民館、市内行政掲示板）	
		○協力会員募集チラシ新聞折込の実施	1回（8/31 28,000部）【1回 28,200部】
		○情報誌ぱど折込み	1回（10/23 10,000部）【0回】
		障害児（者）緊急一時保護事業（市委託）	
		○実施件数	644件【502件】
		介護形態別内訳	登録介護人によるもの 412件【398件】 協力施設によるもの 232件【104件】
		○利用登録者	59名【54名】
		障がい別内訳	身体障がい 11名【11名】 知的障がい等 32名【27名】 重複障がい 16名【16名】
		○登録介護人	50名【40名】
		○登録介護協力施設	4か所【4か所】
		（社会福祉法人光友会ひかり作業所、NPO法人ハッピーライフ・フォーエバー、 NPO法人バリアフリーセンター・福祉ネット「ナナの家」、 NPO法人アビリティクラブたすけあい粕江たすけあいワーカーズなかよし）	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	地域福祉課	住民参加サービス係 意思疎通支援事業（市委託） ①通訳者の派遣 ○派遣件数 手話通訳 388件【327件】 要約筆記 29件【8件】 ○登録通訳者 手話通訳 20名【14名】 要約筆記 26名【26名】（内、手書きのみ9名、PCのみ10名、手書き・PC両方7名） ②運営・スタッフ会議 ○手話運営委員会 6回【7回】 （4/7、5/26、9/3、11/20、2/15、3/17） ○手話講習会スタッフ会議 3回【3回】 （4/14、9/24、2/2） ○要約筆記運営委員会 6回【7回】 （5/22、7/7、9/4、11/6、1/29、3/15） ③通訳者研修 ○手話通訳者研修会 6回【4回】 会場 あいとぴあセンター・粕江市防災センター ・ 6/22 講師 矢野朱美氏（東京手話通訳等派遣センター） ・ 7/25 講師 朝倉靖裕氏（東京手話通訳等派遣センター） ・ 9/4 講師 田原直幸氏（東京手話通訳等派遣センター） ・ 12/12 講師 飛山将紀氏（東京手話通訳等派遣センター） ・ 2/26 講師 朝倉靖裕氏（東京手話通訳等派遣センター） ・ 3/7 講師 朝倉靖裕氏（東京手話通訳等派遣センター） ○要約筆記者研修会 5回【4回】 ・ 10/24 講師 君島淳二氏（国立障害者リハビリテーションセンター） ・ 1/23・29 講師 寺井雅子氏 ・ 1/30・3/4 講師 永田理恵氏 ④通訳者養成講習 ○手話講習会（開講式5/9、合同講演会11/28、閉講式3/12） 会場 あいとぴあセンター ・ 初級コース 5/14～3/10 木曜日 全33回 受講者18名 修了者15名 【受講者25名 修了者20名】 講師 河合優子氏 助手 大宅はるみ氏 ・ 中級コース 5/14～3/10 木曜日 全33回 受講者13名 修了者11名 【受講者20名 修了者18名】 講師 堀一子氏 助手 武知美恵子氏 ・ 上級コース 5/12～3/8 火曜日 全33回 受講者14名 修了者14名 【受講者16名 修了者15名】 講師 竹林伸子氏 助手 渡口敦子氏 ・ 養成コース 5/13～3/3 火曜日 全33回 受講者8名 修了者8名 【受講者10名 修了者10名】 講師 金井富美子氏 世話人 大澤雪恵氏	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	地域福祉課住民参加サービス係	⑤手話入門講座 全5回（2/17、2/24、3/2、3/9、3/16）【5回】 ・ 受講者 23名 【18名】 ・ 会場 あいとぴあセンター ・ 講師 長谷川昌子氏 ・ 助手 大林美枝子氏 ⑥要約筆記講習会＜パソコン文字通訳＞ 全13回（9/11・18・25、10/2・9・16・23・30、11/6・13・20・27、12/4） ・ 受講者 7名 ・ 会場 あいとぴあセンター ・ 講師 永田理恵氏、長谷川洋氏、柴田晶子氏、山本尚子氏 ・ アシスタント 宇都宮伸子氏、柴田晶子氏、関山典子氏、堀 勝三氏 ・ 情報保障 粕江要約筆記サークル こまくさ ※昨年度は「パソコン文字通訳講習会」ではなく、「手書き要約筆記講習会」を実施 ⑦要約筆記フォローアップ研修＜パソコン文字通訳＞ 全5回（12/11、1/8、1/22、2/5、2/19） ・ 受講者 6名 ・ 会場 あいとぴあセンター ・ 講師 永田理恵氏、柴田晶子氏 ・ アシスタント 宇都宮伸子氏、柴田晶子氏、関山典子氏、堀勝三氏 ※昨年度は「手書き要約筆記フォローアップ研修」を実施	
		中途失聴難聴者手話講習会（独自事業） ※平成27年度新規取組 「聞こえにくい・聞こえない人のための手話講習会」 全15回（7/1・8・15・22・29、8/19・26、9/2・9・16・30、10/7・14・21・28） ・ 受講者 8名 【0名】	
		生活福祉資金貸付事業（東社協委託）	①相談件数 719件 【593件】 ○新規貸付相談 68件 【61件】 ○継続貸付相談 520件 【355件】 ○償還関係 117件 【97件】 ○その他 14件 【80件】 ②決定件数・金額 14件 7,365,810円 【12件 12,791,790円】 ○福祉資金 9件 6,174,810円 【10件 12,441,790円】 ・ 福祉費 2件 742,810円 【3件 771,790円】 ・ 教育支援資金 6件 5,372,000円 【6件 11,570,000円】 緊急小口資金 1件 60,000円 【1件 100,000円】 ○総合支援資金 5件 1,191,000円 【2件 350,000円】 生活支援費 4件 1,141,000円 【1件 240,000円】 住宅入居費 0件 0円 【0件】 一時生活再建費 1件 50,000円 【1件 110,000円】

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	地域福祉課	住民参加サービス係	
		③教育資金アドバイスセミナーの企画・実施 ○周知 市内全中学校・高等学校 ○申込み 0件 【高等学校 1校】 ④研修等 民生委員・児童委員生活福祉部会研修 講師派遣 (5/20)	
		受験生チャレンジ支援貸付事業（市委託） ①相談件数 397件【297件】 ○新規貸付相談 45件【48件】 ○継続貸付相談 304件【215件】 ○償還 48件【34件】 ②貸付決定件数及び決定額 46件 5,543,100円【50件 6,514,200円】 ○塾代 24件 4,625,500円【27件 5,361,800円】 ○受験料 22件 917,600円【23件 1,152,400円】 ③事業の周知 ○市内全中学校へパンフレット配布等 1回【1回】 ○市内高等学校へパンフレット配布等 1回【0回】 ○市内の学習塾へパンフレット配布等 17校【16校】 ○都営狹江アパートへのチラシの回覧 1回【1回】 ○市報への掲載 1回【1回】 ○社協だよりへの掲載 2回【1回】	
		低所得世帯学習支援事業（独自事業） ※平成27年度新規取組み 「学習支援ステーション コマゼミ」 ○夏季 4回 ・参加者 小学生7名・中学生3名 計10名 / ボランティア16名 各日内訳 8/5 小学生 7名・中学生 3名・ボランティア 10名 8/12 小学生 6名・中学生 3名・ボランティア 7名 8/19 小学生 5名・中学生 2名・ボランティア 12名 8/26 小学生 7名・中学生 3名・ボランティア 9名 ○春季 3回 (3/16・23・30) ・参加者 小学生5名 / ボランティア6名 各日内訳 3/16 小学生 5名・ボランティア 6名 3/23 小学生 5名・ボランティア 5名 3/30 小学生 5名・ボランティア 5名	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
福祉サービス利用支援部門			
地域福祉課相談支援係			
障害者福祉センター			
障害者福祉センター（相談事業・市委託）			
①総合相談 常時開設（月～金、第2・4土） 障がい者地域自立生活支援センターの総合相談に統合			
②療育相談			
○毎月2回開設			
○開設日数 20日【24日】			
○相談件数 延 43件【延 55件】			
○相談員 慈恵医大第三病院小児科医（山内裕子氏→7月より田村英一郎氏へ交替） 粕江市医師会小児科医（石戸谷尚子氏） 臨床心理士（小林香代子氏）			
※事前相談対応件数 0件【2件】			
③歯科相談			
○開設日数 4日【4日】			
○相談件数 延 105件【延102件】			
○相談員 粕江市歯科医師会歯科医（島野清二郎氏・杉田礼司氏・鈴木淳氏 関谷俊治氏・津江明伸氏） 歯科衛生士（富士野喜美子氏・松原かずみ氏）			
特定相談支援事業所サポート			
特定相談支援事業所			
○サービス等利用計画作成件数 特定相談 101件【101件】 児童相談 62件 ※27年度新規取組			
○モニタリング件数 特定相談 291件【307件】 児童相談 64件 ※27年度新規取組			
○相談支援事業所連絡会 12回【11回】			
障がい者地域自立生活支援センター サポート			
障がい者地域自立生活支援センター（市委託）			
①相談件数 2,239件【3,344件】			
○総合支援法関連サービス等に関する事			
○その他の制度サービスに関する事			
○金銭に関する事			
○生活面に関する事			
○健康に関する事			
○余暇活動に関する事			
○人間関係に関する事			
○その他			
②支援延べ件数 1,198件【1,505件】			
○総合支援法関連サービス等の利用援助			
○社会資源を活用するための支援			
○専門機関等紹介			
○社会生活力を高めるための支援			
○ピアカウンセリング			
○その他			

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	地域福祉課相談支援係		
	障がい者地域自立生活支援センター サポート		
	③フリースペース 24回 参加者延 239名【23回 222名】 ※今年度よりパソコンスペースとオープンスペースは「フリースペース」に統合した ④自立生活向上プログラム ○知的障がい者の対人関係について学習会 家族、支援者向け学習会 「障がい者のための対人関係学習会 ～社会で暮らしていくために～（10/15）」 6名【17名】 本人向け学習会 「街中・学校・職場でのマナー（11/28）」 5名【9名】 本人向け学習会 「異性の友達に対してのマナー（1/23）」 6名【5名】 ○障がい者料理教室「まいう～」 4回 参加者延 30名【4回 27名】 ○自立生活プログラム 10回 参加者延 48名【10回 50名】 ○自立生活プログラム 家族支援者向け 1回 参加者 7名【1回 13名】 ⑤関係機関等の事業、会議への参画 ○特別支援学校支援会議 3回（府中けやきの森学園・南大沢学園・ 葛飾ろう学校）【2回】 ○ふれあいサロン「夢一」運営委員会 6回【6回】 ⑥狛江市地域自立支援協議会への参画 ○狛江市地域自立支援協議会 全体会 3回【3回】 ○狛江市地域自立支援協議会 定例会 3回【4回】 ○狛江市地域自立支援協議会当事者部会 役員会 11回【11回】 ○狛江市地域自立支援協議会当事者部会 チームホイール 4回【4回】 ○狛江市地域自立支援協議会当事者部会 コミュニケーションルーム 4回【1回】 ⑦その他 ○上映会「みんなの学校（12/5）」（SORANAの会共催）		
	障がい者就労支援センター サポート		
	就労支援登録者 132名 就労中84名うち新規就労22名 【142名 就労中74名うち新規29名】 ①相談支援件数 <就労支援> ○職業支援 延 424件【755件】 ○就職準備支援 延 257件【429件】 ○職場開拓件数 延 124件【97件】 ○職場実習 延 10件【30件】 ○職場定着支援 延 459件【616件】 ○離職支援 延 11件【47件】 <生活支援> ○日常生活支援 延 160件【17件】 ○不安や悩みの解消 延 258件【216件】 ○豊かな社会生活を築く為の支援 延 49件【48件】 ○将来設計相談 延 18件【4件】 <訓練等実績> ○委託訓練 延 59件【74件】 ○職場実習 延 21件【73件】		

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	地域福祉課相談支援係		
	障がい者就労支援センター サポート		
	②就労プログラム ○講演会「就労促進講演会～障がい者が働くために～（2/26）」 参加者23名 ○就労ミーティング 10回 参加者延 51名【12回 82名】 ○おしゃべり会 1回 参加者 10名 ③企業見学会 10社 参加者数延 10名【8社 17名】 （ゴディバジャパン株式会社、株式会社あしか、アニヴェルセル株式会社、リゾートトラスト株式会社、富士通フロンテック株式会社、株式会社アスラ、株式会社ナチュラルプランツサポート、株式会社アイエスエフネット、ブリジストン・チャレンジド株式会社、東京グリーンシステムズ株式会社） ④関係機関情報交換会 4回【6回】 ふれあいサロン「夢一」 ⑤関係機関会議等 ○職業安定所雇用支援会議 2回【2回】 ○多摩地区障害者就労支援事業連絡会（ブロック会） 2回【2回】 ○東京都障害者就労支援関係機関意見交換会 2回【2回】 ○多摩地域就労支援事業実施団体連絡会議 5回【5回】		
	あいとぴあ地域包括支援センター		
	地域包括支援センター（市委託）		
	①総合相談件数 延3,307件【1,211件】 ②新規相談件数 318件【201件】 ③月平均介護予防給付管理数 166.4件（自社作成分）【150件】 21.2件（居宅委託分）【24件】 ④二次予防事業対象者支援 22件【18件】 ⑤虐待対応 35件【37件】 ⑥権利擁護（成年後見申し立て支援、消費者被害対応） 4件【5件】 ⑦介護予防普及啓発事業 32回【32回】 内訳 運動（あいとぴあ、多摩川住宅）24回、認知症予防6回、その他2回 【23回、6回、2回】 ⑧認知症サポーター養成講座 5回【5回】 ⑨家族介護者教室（認知症講演会） 2回【2回】 ⑩介護者の集い 12回【10回】 ⑪ケアマネ向け研修 1回【1回】 ⑫ケアマネ支援 延 171件【延61件】 ⑬民生委員との定例会 5回【5回】		
	あんしん狛江		
	地域福祉権利擁護事業（東社協委託）		
	①専門員配置数 1.5名【1名】 ②生活支援員登録者数 11名【8名】 ③契約者数 契約件数 56件【40件】 うち新規契約件数 18件【16件】 ④相談件数（問い合わせ・継続相談等） 1,058件【529件】 ⑤契約に基づく支援件数 734件【453件】		

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		地域福祉課相談支援係 あんしん狛江	
		福祉サービス総合支援事業（狛江市委託） ①業務担当者配置数 1名【1名】 ②利用者サポート事業 ○福祉サービスの利用に際しての苦情対応 10件【19件】 ○判断能力が不十分な者の権利擁護相談 961件【411件】※再掲含む ○成年後見制度の利用相談 809件【689件】 ○その他福祉サービスに関する専門的な相談 327件【51件】 ③福祉サービス利用援助事業 ○対象拡大契約件数 4件【4件】 ○対象拡大支援件数 32件【24件】 ○減免対象者の支援件数 213件【209件】 ④苦情対応専門相談の設置 ○弁護士による専門相談 24件【27件】 あんしん狛江運営委員会 2回 ※27年度新規取組	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
法人運営部門			
	地域福祉課組織管理係		
		役員会・理事会・評議員会	
		①役員会	3回（5/21、9/8、3/18）【2回】
		②理事会	4回（5/29、10/28、12/21、3/22）【5回】
		③評議員会	4回（5/29、10/28、12/21、3/25）【4回】
		④理事・評議員合同会議	0回【1回】
		⑤監査	2回（5/19、12/7）【2回】
		⑥内部会計監査	2回（5/15、12/4）【2回】
		広報事業	
		①ホームページアクセス数 H27.4～H28.3末	10,442件【8,554件】
		②こまえ社協だより	
		○新聞折込で4回（No163～166）1回あたりの発行部数	30,020部【30,020部】
		※10/1発行号は協賛店紹介特大号	
		③マスコットキャラクター活用検討プロジェクトチーム	
		○プロジェクト会議	0回【12回】
		※会議は社内web機能の電子会議室を活用して実施	
		○マスコットキャラクターこまちゃんを活用したグッズ等のデザイン検討及び作成	
		ポロシャツ（2色）、Tシャツ（2種類）、ポーズ追加（5種類）、のぼり、	
		ノート	
		○出演	
		民生委員・児童委員活動普及駅頭PR（5/15）、終戦70周年平和祈念事業（5/25）	
		会員事業駅頭PR（7/15）、2015狛江フェスティバル（8/22、8/23）	
		狛江市民デー（9/12）、第35回ボランティアのつどい（9/27）	
		赤い羽根街頭募金（10/1）、市民まつり（11/15）、松戸市社協視察対応（11/20）	
		狛江市親子フェスティバル（11/21）、歳末たすけあい街頭募金（12/1）	
		○その他	
		ゆるキャラグランプリ2015へのエントリー（8月）	
		自主財源の確保	
		①社会福祉協議会会員制度	
		・会費収入	3,519,000円【3,482,000円】
		・つつじ会員	2,718件【2,803件】
		・いちよう会員	51件【41件】
		・さくら会員	4件【3件】
		・加入率	6.8%【7.2%】
		○理事・評議員・協力委員による個別訪問	
		事務打合せ会	1回【1回】
		○小田急線駅頭でのPR活動（7/14～16）	
		○市内自治会でのPR用資材の回覧、ポスター掲示	
		○集合住宅でのチラシのポスティング（新）	
		○会員募集チラシ新聞折込	1回（8/23 28,170部）【1回】
		○市内企業へ会員加入DM送付（新）	68団体

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		地域福祉課組織管理係	
		②会員制度協賛店事業（平成24年10月より実施） ○協賛店登録数 46店【45店】 ○協賛店紹介サイトアクセス数（H27.4～H28.3末） 6,158件【6,732件】 ③自主財源の確保 ○一般寄付金（物品寄付を含む）39件 335,937円【44件 995,970円】 ○指定寄付金 ・あいとぴあ基金 0件 0円【4件 132,421円】 ・誕生日募金 11件 176,522円【16件 150,094円】 ・その他の指定寄付金収入 22件 4,436,767円【14件 219,725円】 ※あいとぴあ基金積立金累計額（平成28年3月末） 104,532,776円 【104,343,732円】	
		共同募金運動の実施 地域福祉の推進を目的とする「共同募金」の一環として以下の運動を実施 ①赤い羽根共同募金運動（10月1日より実施）※粕江地区協力会として実施 募金総額 1,034,169円【1,318,408円】 ②歳末たすけあい運動（12月1日より実施） 募金総額 3,463,425円【3,196,373円】	
		地域福祉活動団体の支援 あいとぴあ助成金 ①助成金額合計 1,000,000円【885,100円】 ②助成団体 16団体【14団体】 ○福祉団体等 粕江さつき会、野川元気スクール、粕江元気スクール、こまえチャイルドライン、 NP0法人こどもの遊びと育ちをささえる会・粕江、粕江市老人クラブ連合会、 NP0法人えるぶ スペースえるぶ、粕江市NP0連絡協議会、粕江市手をつなぐ親の会 NP0法人えるぶ 子ども教室えるぶ、一般社団法人サポート粕江、 フードバンクを考える会、NP0法人バリアフリーセンター福祉ネット「ナナの家」 粕江市登録手話通訳者研修会 ○町会・自治会 元和泉2・3丁目町会、覚東町会	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
在宅福祉サービス部門			
	サービス事業課在宅サービス係		
	あいとぴあホームヘルプステーション		
	①登録訪問介護員等 ○ホームヘルパー 28名【33名】 ガイドヘルパー 6名【9名】 ・ヘルパー連絡会 11回（4/30、5/29、6/30、7/31、8/31、9/30 10/30、11/30、1/29、2/29、3/31）【10回】 選択研修① 「明治・栄養食品勉強会」 (6/13) 選択研修② 「コミュニケーションの基礎」 (7/22) 選択研修③ 「身体介護研修」 (10/24、10/25) ・実習生受入れ 東京慈恵会医科大学看護学科 17名 31日間【19名 21日間】 ②訪問介護事業・介護予防訪問介護事業 ○利用者数 延 823名 【929名】 ○サービス提供件数 延 6,240件 【7,100件】 ○サービス提供時間 延 6,048時間【7,223.5時間】 ③障害者総合支援法 (居宅介護) ○利用者数 延 383名 【254名】 ○サービス提供件数 延 2,060件 【2,623件】 ○サービス提供時間 延 4,661時間【4,805.5時間】 ④障害者地域生活支援事業 (移動支援) ○利用者数 延 104名 【116名】 ○サービス提供件数 延 553件 【801件】 ○サービス提供時間 延 514時間【614.5時間】 ⑤ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業（市委託） ○利用者数 延 24名 【22名】 ○サービス提供件数 延 232件 【195件】 ○サービス提供時間 延 328時間【445時間】		
	あいとぴあ（居宅介護支援事業所）		
	居宅介護支援事業		
	介護支援専門員 2名【2名】 ○月平均給付管理者数 53名【55件】 ○認定調査受託 11件【17件】		

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		サービス事業課早期療育訓練係 子ども発達教室ぱる	
		早期療育訓練事業（市委託） ○開所日数 197日（児童発達支援対象195日 ※グループ実施回数352回） 【178日 児童発達支援対象172日 グループ実施回数286回】 ○通所児童 定員 80名（10名×8グループ） 実利用人数 76名【63名】 通所人数 延1,858名【1,769名】 児童発達支援対象 延1,839名【1,716名】 ○新規利用開始児童 19名（内プール利用開始3名）【23名プール利用開始6名】 ○個別指導 延 381名 【339名】 言語指導185名【215名】理学療法85名【78名】作業療法111名【46名】 ○保護者勉強会：心理 12回 延58名 ○ペアレントトレーニング：心理 27回 延166名【136名】 ○保護者グループワーク：心理 46回 延211名【22回141名】 ○保護者面談：37名 【46名】※軽易な相談は集計せず。 ○粕江市民からの発達に関する相談 22名（療育相談につながったケース含む） ○関係機関との情報共有 30件 ○講演会（対象：保護者・関係機関） 1回 保護者19名 関係機関12名 ○就学後相談（グループ相談） 10回【9回】 小学部 延29名【11名】、中学・大人部 延2名【6名】、合同相談 延7名【10名】 ○家族参観日 16回（保護者96名）【6回】 保護者会 16回【12回】 ○避難訓練 7回 40組 ○遠足 多摩動物公園 参加者19組（41名）【21組 42名】 ○外出プログラム（近隣の公園） 7回 40組 ○卒業式 参加者16組（16名）【13組 26名】 ○個人面談 118回 【78回】 ○幼稚園見学（訪問） 6回 【13回】 内訳）子鹿幼稚園、みずほ幼稚園、染地幼稚園、国本幼稚園、 つつじヶ丘幼稚園、こだま幼稚園 ○保育園見学（訪問） 11回 【18回】 内訳）和泉保育園、三島保育園、宮前保育園、駄倉保育園、駒井保育園、 藤塚保育園、粕江保育園、多摩川保育園、ベネッセ粕江南保育園、 ぎんきょう保育園、東野川保育園みんなの家 ○療育施設、特別支援学校等見学（訪問） 4回【3回】 Leaf成城、くるみ幼児園、杉並区児童発達支援センター、多摩療育園 ○就学ガイダンス ①教育委員会による説明会 1回 参加者16名 【1回】 ②先輩保護者からの経験談 2回 延べ18名 【2回】 ③学校見学 8回 延46名 【9回】 内訳）けやき学級、いずみ学級、えのき学級、ふたば学級、ひまわり学級 五小ふたば教室、六小ひまわり教室、調布特別支援学校 ④まとめの会 1回 延8人 【1回】 ○就学前発達検査 9人 ○就学後支援会議 12回【5回】 ○関係機関会議 16回【25回】 ○専門職会議 3回【3回】	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
		サービス事業課早期療育訓練係 子ども発達教室ぱる ○全体カンファレンス 5回【5回】 ○担任カンファレンス 10回【11回】 ○給食会議 12回【12回】 ○心理発達関係者連絡会 1回【1回】 ○見学受入れ 利用希望者35名、利用児保護者11名、関係機関7名 【利用希望者31名、利用児保護者10名、関係機関12名】 ○実習生受入れ 9名【8名】 ○保育園との合同研修（市立6園×1名、合計6名の先生を1人3日間グループ指導時間に受け入れて、一緒に研修を行った） 11/9～11/30 延18名【18名】 （市内保育園・幼稚園に呼びかけ合同研修を行った） 10/15、29、11/26 延23名【25名】 ○スタッフ研修 4回【7回】	

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
	サービス事業課知的障がい者通所訓練係 生活介護事業「麦の穂」		
		知的障害者通所訓練事業 ○開所日数 232日【231日】 ○通所者 13名 延2,748名【13名 2,740名】 ○保護者会 10回【12回】 (2/13、6/4、7/1、8/5、9/2、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3) ○個別面接 8日間(4/7、8、9、10、10/5、6、7、8)【7日間】 ○特別行事 利用者全員で、交通機関を使ったり、マイクロバスを借り上げての 外出活動や、花見・忘年会などの季節に合わせた行事を月に1回実施 (4/15、5/14、6/11、7/30、8/28、9/10、10/16、12/24、1/14 2/18、3/24) 11回【年11回】 ○宿泊活動 1回(11/19～11/20)【1回】 宿泊先：かんぽの宿石和 行き先：山梨県立リニア見学センター、笛吹川フルーツ公園 モンデ酒造見学、昇仙峡 ○クラブ活動 行き先を個々のご利用者の希望に合わせるため、少人数制で 4グループに分けた外出活動。1グループにつき年間5回程度 合計23回実施【22回】 (4/23、5/21、5/28、6/18、6/25、7/16、7/23、8/19、8/20、9/17 9/24、10/8、10/22、11/19、11/26、12/10、12/17、1/14、1/28 2/18、2/25、3/10、3/17) ○利用者健康診断 2回(男性2/29 女性3/7)【2回】 ○ケース会議 12回(4/30、5/27、6/24、7/29、8/26、9/30、10/28 11/25、12/16、1/27、2/24、3/30)【12回】 ○嘱託医相談 12回(4/8、5/13、6/10、7/8、8/12、9/9、10/14 11/11、2/9、1/13、2/10、3/9)【11回】 ○医療看護会議 12回(4/30、5/27、6/24、7/29、8/26、9/30、10/28 11/25、12/16、1/27、2/24、3/30)【12回】 ○専門指導 言語療法：3回【3回】 作業療法：2回【2回】 音楽療法：4回【4回】 織り：2回【2回】 造形：2回【2回】 スーパービジョン：4回【4回】 ○スタッフ研修 5回【5回】 ○ボランティア 散髪：10回【10回】 歯磨指導：6回【6回】 ○夏体験ボランティア受入れ 0名【1名】	
行動計画			
	○総合企画調整委員会 1回(9/2) 【2回】 委員長 法政大学 宮城孝氏		

部門	担当係	事業内容	【 】は平成26年度実績
労働安全衛生の管理			
		①委員会の開催 ○衛生委員会 4回【4回】 産業医：加藤一彦氏（かとうクリニック） ○職場委員会 2回【3回】 ②健康診断の実施 正規・嘱託職員対象（5/20～5/26） 受診者38名 非常勤職員対象（2/5～2/6） 受診者51名 ③産業医による職場巡視指摘事項 ○地震による更衣室ロッカー上の段ボールの転落危険の指摘 改善点→ロッカー上にダンボール箱等の物品を置かないように改善した。 ○“ぱる”子供用トイレに窓がないため換気が不十分であり二次感染の恐れがある指摘 改善点→空気清浄器を設置した。 ○麦の穂の棚が固定されていない為、地震の際は倒れる可能性がある指摘 改善点→棚を撤去した。	
苦情解決の体制			
		○苦情解決システムに関する会議 1回（11/18） 【1回】 平成26年7月1日から平成27年6月30日までに受けた3件の苦情対応を報告 【平成25年7月1日から平成26年6月30日までに受けた2件の苦情対応を報告】	
実習生受け入れ			
		①田園調布学園大学実習生 1名（8月19日～9月28日 計180時間） ②武蔵野大学実習生 1名（8月19日～9月28日 計180時間） ③上智社会福祉専門学校実習生1名（8月19日～9月 7日 計 90時間）	

